

## 決算補足説明資料

# 2025年度 3-11月期 業績概要

### 注意事項

- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2025年3月1日～2025年11月30日)

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

本日はお忙しい中、当社 決算オンライン説明会にご参加いただきありがとうございます。

それでは、2025年度 3-11月期の業績概要についてご説明いたします。

1ページにお進みください。

### ➤ 2025年度 3-11月期 実績

- ➔ **売上収益** … 前年同期比+0.4%
  - ・新規受注を確実に売上につなげ、受注残の正常化を進めた前年同期を上回る着地
- ➔ **営業利益** … 前年同期比▲3.3%
  - ・ロボットの売上案件ミックスの影響等により減益も、モーションの付加価値改善によりほぼ想定通りの着地
- ➔ **税引前利益** … 前年同期比▲44.3%  
**親会社の所有者に帰属する四半期利益** … 前年同期比▲43.8%
  - ・持分法適用会社の株式譲渡益を計上した前年同期に対し減益
- ➔ **第3四半期 受注** … 前年同期比+15%・前四半期比+3%
  - ・インバータにてオイル・ガス向けの大口受注を獲得し前年同期比・前四半期比ともに増加

### ➤ 2025年度 通期 見通し

- ➔ **売上収益:5,250億円、営業利益:480億円（25年10月3日公表値を据え置き）**
  - ・米国関税政策などにより不透明な状況の中、足元では需要の回復が見られるものの3-11月期の進捗は想定通りであるため、通期見通しを据え置く
  - ・4Q想定為替レートは前回計画から変更なし
  - ・25年度の配当予想も4月4日公表時から変更なし（一株当たり年間配当68円）

当決算におけるサマリーです。

詳しくはこの後にご説明いたします。

それでは、5ページにお進みください。

## 1. 2025年度 3-11月期 連結業績

- 2025年度 3-11月期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2025年度 3Qにおける取組み
- AIロボティクス領域の拡大に向けた取組み

## 2. 2025年度 通期 連結業績見通し

- 2025年度 通期 見通し

## 3. 参考資料

- 設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度
- B/S 構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 売上収益・営業利益 四半期推移
- 売上収益 四半期推移
- 四半期受注推移
- 参考定量情報

## モーションコントロール

### 【主要製品】

- ・ ACサーボドライブ、コントローラ
- ・ リニアサーボ
- ・ インバータ
- ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ
- ・ PMモータ

など



## ロボット

### 【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
  - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
  - ハンドリング用途向け
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオメディカル用途向けロボット
- ・ 人協働ロボット
- ・ 自律ロボット

など



## システム エンジニアリング

### 【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電気システム
- ・ 上下水道用電気計装システム

など



## その他

- ・ 物流サービス

など

# **1. 2025年度 3-11月期 連結業績**

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

- ・売上収益は新規受注を確実に売上につなげ、受注残の正常化を進めた前年同期から増加
- ・営業利益はモーションコントロールで付加価値改善が寄与も、ロボットの売上案件のミックスの影響などにより減少
- ・売上収益・営業利益ともに、ほぼ想定通りの着地

	2025年度	2024年度	前年同期比	
	3-11月期 実績	3-11月期 実績	増減額	増減率
売上収益	3,952億円	3,937億円	+15億円	+0.4%
営業利益	332億円	343億円	▲11億円	▲3.3%
税引前利益	351億円	630億円	▲279億円	▲44.3%
<small>親会社の所有者に帰属する</small> 四半期利益	255億円	455億円	▲199億円	▲43.8%

3-11月期の実績です。

当期の経営環境は、総じて不透明な状況が継続しましたが、上期に堅調な需要が見られた国内電子部品市場に加え、グローバルの半導体市場も、AI関連の投資がけん引する形で、期の後半から徐々に回復が見られました。

また、中国・韓国の自動車市場における設備投資需要は引き続き堅調に推移し、一般産業分野における自動化需要もグローバルで底堅く推移しました。

一方で、日本・米州・欧州の自動車市場における設備投資需要は、関税影響などにより軟調に推移しました。

このような中、当社グループの業績については、新規受注を確実に売上につなげたことで、売上収益は受注残の正常化を進めた前年同期を上回る結果となりました。

営業利益については、モーションコントロールセグメントにおいて付加価値改善が寄与したものの、ロボットセグメントにおける売上案件のミックス影響などにより、前年同期に比べ減益となりました。なお、売上収益・営業利益ともに、ほぼ想定通りの着地となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益については、持分法適用関連会社の株式の一部譲渡に伴う株式譲渡益などを計上した前年同期に比べて、減益となりました。

売上収益は前年同期比0.4%増の3,952億円、  
営業利益は3.3%減の332億円、  
税引前利益は44.3%減の351億円、  
四半期利益は43.8%減の255億円です。

それでは、次の6ページにお進みください。

2025年度 3-11月期 実績（セグメント別）

- ・ モーションコントロールは受注残の正常化を進めた前年同期に比べ減収も、付加価値改善や間接費抑制により増益
- ・ ロボットは中国と韓国での自動車大口案件の売上や、一般産業分野の設備投資需要をグローバルで捉え増収も、売上案件のミックスの影響により減益
- ・ システムエンジニアリングは各主力事業で販売が微減となり減収。売上減少に伴う利益減の影響で減益

(単位：億円)	2025年度 3-11月期		2024年度 3-11月期		前 年 同 期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
売上収益	3,952		3,937		+15	+0.4%
モーションコントロール	1,709		1,783		▲75	▲4.2%
ロボット	1,830		1,705		+125	+7.3%
システムエンジニアリング	268		278		▲10	▲3.5%
その他	145		171		▲25	▲14.9%
営業利益	332	8.4%	343	8.7%	▲11	▲3.3%
モーションコントロール	164	9.6%	160	9.0%	+4	+2.4%
ロボット	155	8.5%	161	9.5%	▲6	▲3.9%
システムエンジニアリング	27	10.2%	30	10.9%	▲3	▲9.6%
その他	14	9.6%	10	6.1%	+4	+34.8%
消去または全社	▲28	-	▲19	-	▲9	-

セグメント別の業績です。

モーションコントロールは、受注残の正常化を進めた前年同期に比べると減収となりましたが、付加価値の改善や間接費の抑制により、増益となりました。

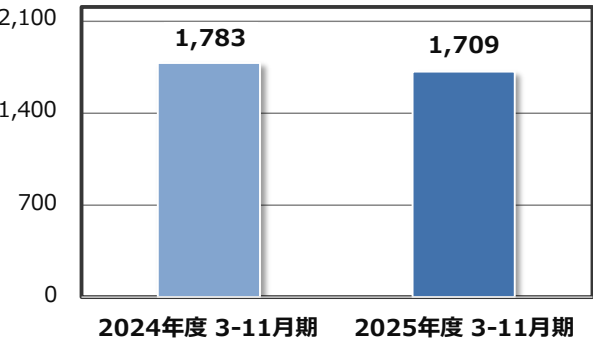
ロボットは、中国や韓国における自動車関連の大口案件の売上や、一般産業分野の設備投資需要をグローバルで捉え増収となりましたが、利益面については、売上案件のミックス影響により減益となりました。

システムエンジニアリングは、各主力事業において販売が僅かに減少したため減収となり、営業利益についても、売上減少に伴う利益減の影響を受け、減益となりました。

続いて、各セグメントの詳細についてご説明いたします。  
それでは、次の7ページへお進み下さい。

# 主要事業の概要 モーションコントロール

売上収益(億円)



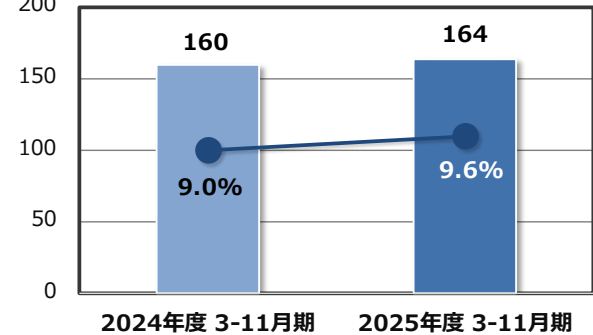
【売上収益】

- ACサーボは米州・アジアの半導体市場向けの販売が減少も日本の電子部品市場向けを中心に販売が増加し微増
- インバータは米国の太陽光発電用パワーコンディショナや空調用途向けの販売が堅調も、前年同期に受注残の正常化を進めた影響もあり減収

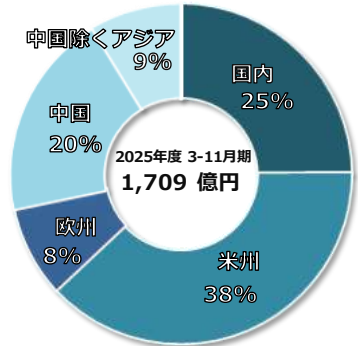
【営業利益】

- 付加価値の改善や間接費の抑制を進め増益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



モーションコントロールの状況です。

売上収益は、前年同期比4.2%減の1,709億円、  
営業利益は2.4%増の164億円となりました。

ACサーボは、上期に需要が低調に推移した米州・アジアの半導体市場向けの販売が減少したものの、日本の電子部品市場向けを中心に販売が増加したことから、セグメント全体の売上収益は微増となりました。

インバータは、米国において太陽光発電用パワーコンディショナや、空調用途向けの販売が堅調に推移した一方、オイル・ガス用途向けの販売は減少しました。

これらの結果に加え、前年同期に受注残の正常化を進めた影響もあり、セグメント全体では減収となりました。

なお、オイル・ガス用途向けでは、今後の業績に寄与する大口受注を獲得しています。

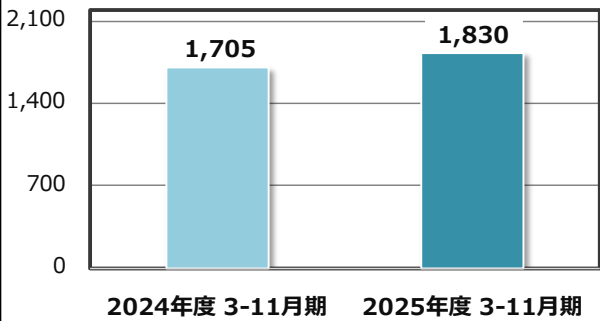
利益面については、付加価値の改善や、間接費の抑制を進めたことで増益となり、営業利益率は9.6%となりました。

それでは、次の8ページへお進み下さい。



# 主要事業の概要 ロボット

売上収益(億円)



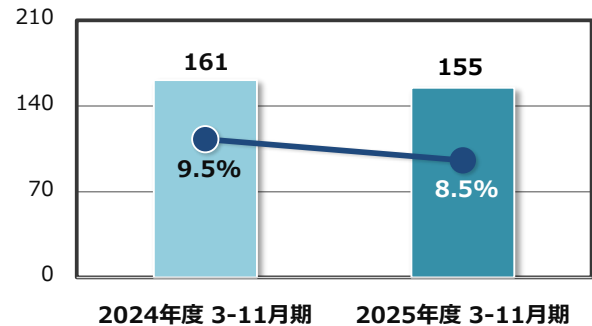
【売上収益】

- 自動車市場では、日本・米州・欧州は関税影響により設備投資が低調に推移も、中国と韓国での大口案件の売上が寄与
- 一般産業分野の設備投資需要をグローバルで捉え、セグメント全体では増収

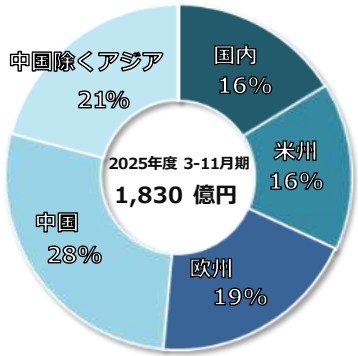
【営業利益】

- 売上案件のミックスの影響により減益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



ロボットの状況です。

売上収益は、前年同期比7.3%増の1,830億円、  
営業利益は、3.9%減の155億円となりました。

自動車市場においては、  
日本・米州・欧州で関税影響により設備投資が低調に推移したものの、  
中国と韓国での大口案件の売上が寄与しました。

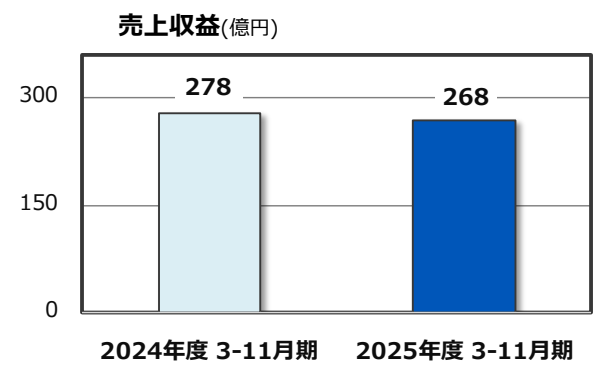
また、一般産業分野における設備投資需要をグローバルで捉えた結果、  
セグメント全体の売上収益は前年同期比で増加しました。

営業利益については売上案件のミックスの影響により減益となり、  
営業利益率は8.5%となりました。

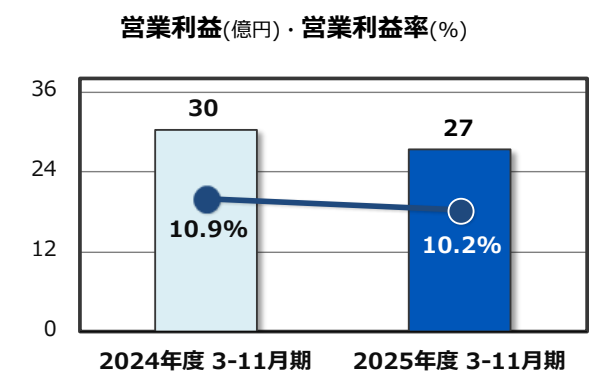
なお、売上収益・営業利益ともに、ほぼ想定通りの着地となりました。

それでは、次の9ページにお進みください。

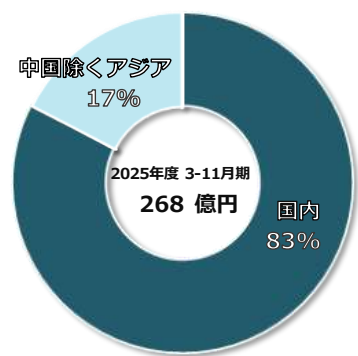
# 主要事業の概要 システムエンジニアリング



- 【売上収益】
- 主力の鉄鋼プラントや港湾クレーン、社会システム向けの販売がそれぞれ微減となり減収
- 【営業利益】
- 売上減少に伴う利益減の影響などで減益



所在地別売上収益構成比



システムエンジニアリングの状況です。

売上収益は、前年同期比3.5%減の268億円、  
営業利益は、9.6%減の27億円となりました。

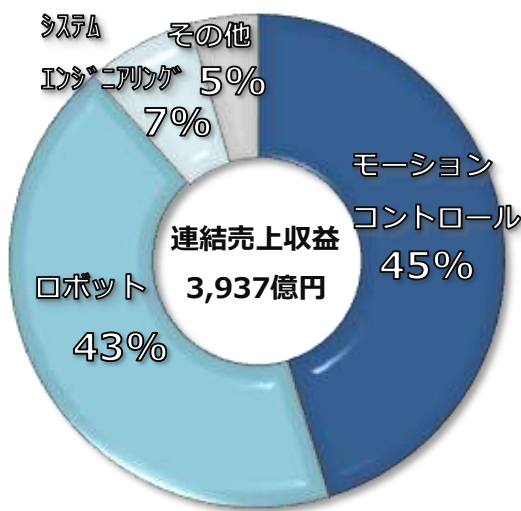
主力の鉄鋼プラントや港湾クレーン、社会システム向けの販売がそれぞれ微減となり、  
売上収益は前年同期に比べ減少しました。

営業利益についても、売上減少に伴う利益減の影響などで減益となりましたが、  
売上収益・営業利益ともに想定通りの着地となりました。

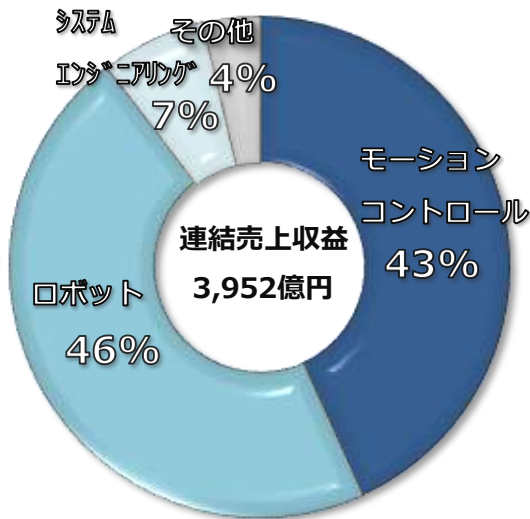
これらの結果、営業利益率は10.2%となりました。

それでは、次の10ページにお進みください。

2024年度 3-11月期



2025年度 3-11月期



セグメント別の売上収益 構成比です。

前年同期に対し、モーションコントロールが2ポイント減少した一方、ロボットが3ポイント増加しました。

これらの結果、ロボットの構成比が46%に、モーションコントロールの構成比は43%となりました。

また、システムエンジニアリングの構成比は7%となっております。

それでは、次の11ページにお進みください。

・アジアの大幅な増収が他地域の減収をカバーし、全体としてほぼ横ばい

(単位：億円)	2025年度	2024年度	前年同 期 比	
	3-11月期 実績	3-11月期 実績	増減額	増減率
売上収益	3,952	3,937	+15	+0.4%
国内	1,070	1,076	▲6	▲0.5%
海外	2,882	2,861	+21	+0.7%
米州	942	977	▲35	▲3.6%
欧州	505	543	▲38	▲6.9%
中国	859	855	+4	+0.4%
中国除くアジア	576	486	+90	+18.6%

[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益です。  
アジアの大幅な増収が他地域の減収をカバーし、  
全体としてほぼ横ばいとなっています。

地域別の状況ですが、  
国内については、上期に需要が顕在化した電子部品市場に加え、  
半導体市場の需要にも回復の兆しが見られましたが、  
自動車市場における設備投資需要は低調に推移しました。

米州では、半導体関連需要が緩やかに回復し、データセンター向けを含む空調関連などの  
需要も堅調に推移しました。また、原油価格下落の影響によりオイル・ガス関連市場の  
設備投資需要は低調に推移する中、来年度以降の業績に寄与する  
大口受注を獲得しています。

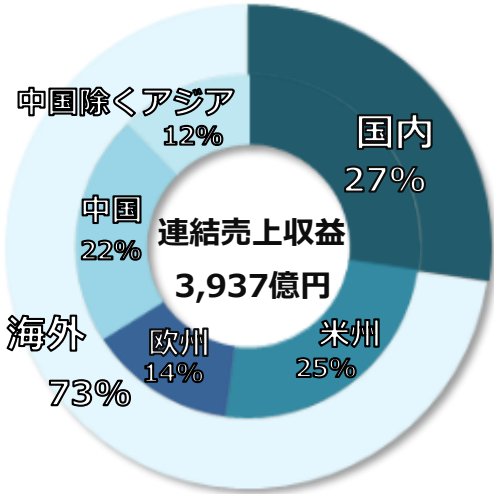
欧州については、一般産業において回復の兆しが見られ、自動化需要は堅調に推移しました。  
一方、自動車市場においては潜在的な需要があるものの、設備投資は伸び悩みました。

中国では、半導体関連の需要が増加したほか、  
自動車市場や一般産業分野における自動化需要も底堅く推移しました。

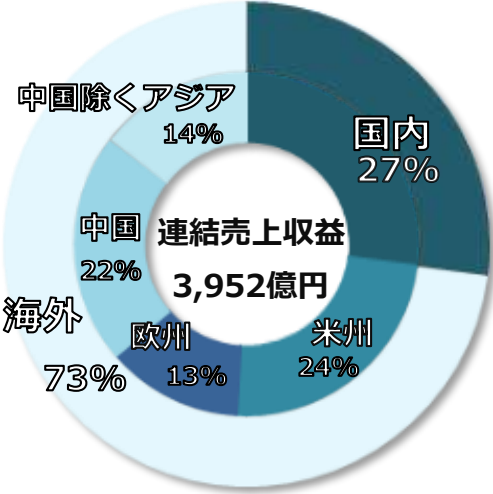
中国除くアジアについては、韓国・台湾における半導体関連需要が回復基調となり、  
韓国の自動車市場や、アセアンにおける一般産業分野の自動化需要も、  
底堅く推移しました。

それでは、次の12ページにお進みください。

2024年度 3-11月期



2025年度 3-11月期



[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

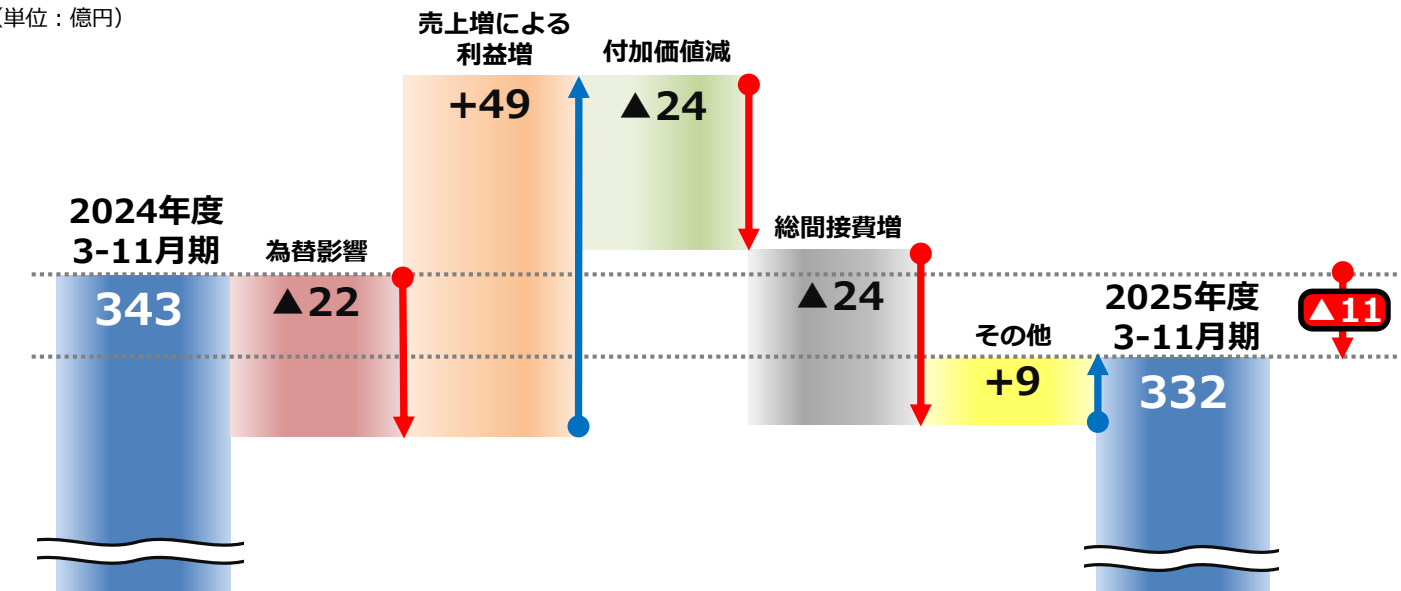
所在地別の売上収益 構成比は、国内・海外ともに前年同期から変化なく、それぞれ27%・73%となりました。

海外の内訳として、米州・欧州がそれぞれ 1 ポイント減少した一方で、中国除くアジアが2ポイント増加しました。

また、中国については前年同期比横ばいで推移しました。

それでは、次の13ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2024年度 3-11月期 → 2025年度 3-11月期）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	▲ 9	▲ 24	+ 25	+ 10	+ 2
ロボット	▲ 13	+ 80	▲ 54	▲ 23	+ 3
システムエンジニアリング	▲ 0	▲ 4	+ 3	▲ 2	+ 0
その他	▲ 0	▲ 2	+ 3	▲ 9	+ 4

営業利益の増減要因分析です。

当期の営業利益は、前年同期の343億円から11億円減少し、332億円となりました。

為替による影響は、各主要通貨が円高に推移したことから、マイナス22億円。

売上増による利益増については、モーションコントロールが減少したものの、販売量が増加したロボットがこれを補い、全体ではプラス49億円。

付加価値の減少はマイナス24億円。  
関税コストが21億円発生しましたが、そのほとんどを価格転嫁によって補填し、マイナス影響は3億円でした。  
また、内製化効果はプラス5億円、棚卸評価損が無くなった影響がプラス5億円となった一方、ロボットにおいては売上案件のミックスの影響を受けました。

総間接費の増加による影響はマイナス24億円。  
欧州を中心とするリストラ効果などがプラスに影響しましたが、賃金の改善による労務費の増加や、情報処理費などの投資コストの増加がマイナスに影響しました。

最後の「その他」はプラス9億円。  
中国子会社の一部移転に伴う一時的な利益が発生したほか、中国における補助金収入などがありました。

それでは、次の14ページにお進みください。



### “i<sup>3</sup>-Mechatronics”ソリューションによる価値創出

#### 開発力の強化

- 既存の作業環境で人の代替が可能な自律性と高い作業力を備えた自律型の双腕ロボット(MOTOMAN NEXT)を開発
- ロボティクスをAIと通信技術で強化し、ロボットが人と柔軟に協働する未来の実現を目指してソフトバンク(株)と覚書を締結



梱包作業を実現する  
自律型の双腕ロボット(MOTOMAN NEXT)

#### 販売力の強化

- セル構築の効率化やグローバル標準技術への対応を実現した製品(『YRM1030』『iC9200』)の発売により、i<sup>3</sup>-Mechatronicsを実現するコントローラソリューション「iCube Control」のラインアップを強化
- 国際ロボット展にてAIロボティクスとデジタルの技術融合による最新ソリューションを提案



YRMコントローラ  
「YRM1030」

### メカトロニクス応用領域の事業拡大による サステナブルな社会実現への貢献

- 再生医療等製品の製造プラットフォームの開発・提供を行うセラファ・バイオサイエンス(株)をアステラス製薬(株)と設立  
(2025年9月29日)
- 「まほろ」によるロボット式細胞培養自動化システムが  
米国食品医薬品局(FDA)から先進製造技術指定を取得(日本企業初)



細胞製造プラットフォームで稼働する  
汎用ヒト型ロボットLabDroid「まほろ」

25年度 第3四半期における取り組みです。

開発面においては、自律ロボット「MOTOMAN NEXT」の双腕型の開発に取り組みながらAIロボティクスの領域を広げるために、AIと通信技術の強いソフトバンク様と2025年12月に覚書を締結し、社会実装に向けた活動を加速しています。

販売面においては、当社のソリューションコンセプトである“i<sup>3</sup>-Mechatronics”を実現するためのコントローラソリューションとして、「iCube Control」のラインアップを拡充・強化しています。

また、昨年12月に開催された国際ロボット展では、AIロボティクスとデジタルの技術融合による最新のソリューション提案を行い、進化し続けるi<sup>3</sup>-Mechatronicsのコンセプトを訴求しました。

一方、メカトロニクス応用領域の拡大については、セラファ・バイオサイエンス社を、アステラス製薬様と共に設立しています。

セラファが開発した当社のロボット「まほろ」を活用したロボット式の細胞培養自動化システムは、米国食品医薬品局（FDA）から12月に、日本企業としては初めて、先進製造技術指定を取得しています。これにより、このプラットフォームで製造した細胞に対して、医薬品としての認証スピードが、米国で大幅に向上します。

それでは、次の15ページにお進みください。

# AIロボティクス領域の拡大に向けた取組み

- ・ 安川電機が定義するAIロボティクスとは『モーションとAIの融合』
  - ・ ロボット自身が「見て」「触って」「判断し」それを基にした「動作」につなげる
- AI による認識・判断を自律的な動きに変え、ロボットが対応できる作業領域を拡張

## 具体的な取組み例

### 変種変量生産の実現



椅子やテーブルの組立作業において、寸法などの設計を変更しても「ロボットの動きを自動生成すること(エンジニアリングレス)」により設備の変更が不要となり、変種変量生産を実現

### 人手に依存していた作業の自動化



これまで人間のカンやコツが必要だった梱包作業において、双腕型のMOTOMAN NEXTは人の実演を模倣し学習することで作業をティーチングレスで自動化

### 新たな場面(未自動化領域)へのフィジカルAIの社会実装



ビル、学校、百貨店などの自動化が進んでいない領域へフィジカルAIを社会実装することに取り組む。SoftBankのAI-RAN※を活用し、オフィスビル内の事象を把握し自律的に対処するユースケースを開発

※ 無線アクセスネットワーク(RAN)にAI技術を組み込みネットワークの最適化や運用効率を向上させる技術

**YASKAWA**

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

15

こちらのページでは、AIロボティクス領域の拡大に向けた取組みについて説明します。

当社ではAIロボティクスを「モーションとAIの融合」と定義しながら、業界に先駆けてNVIDIAのGPUを搭載した自律ロボット「MOTOMAN NEXT」を2023年11月に市場投入しています。その後、ソフトバンク様や富士通様をはじめとするパートナー企業との連携を具体化し、ロボットが対応できる作業領域の拡大を狙い、AIロボティクスの社会実装を進めています。

昨年12月の国際ロボット展では、これまで自動化が難しいと言われていた領域における「MOTOMAN NEXT」の具体的な活用事例や最新のソリューションを紹介しました。

左側の写真はエンジニアリングレスでの変種変量生産の実現として、製品のサイズなどの変更が開発設計の途中で発生しても、安川セルシュミレータ（YCS）が工程全体の動作を自動的に再生成し、複数の「MOTOMAN NEXT」が周辺の状況に合わせて、自ら判断しながら新たな計画を実行する事例です。

中央の写真は、今回、初披露した双腕型の「MOTOMAN NEXT」が、荷物の梱包など人間のカンやコツが必要だった作業を、人の動きから学習し、その動きを再現しています。

右側の写真は、ものづくりの現場に限らず、ビルや学校、百貨店や病院など、新しい場面へのフィジカルAIの社会実装に向け、ソフトバンク様のAI-RANを活用したユースケースを開発した事例です。社会における様々なシーンを「MOTOMAN NEXT」や昨年の7月に買収した東京ロボティクスのヒューマノイドロボットが自律的に認識し、ロボットがより多くの領域で人と共存し作業ができる可能性について、ロボット展を通じ紹介しました。

このように、AIの進化に助けられて、AIロボティクス領域の拡大に期待が高まっています。当社は110年に渡り培ってきたモーションコントロールの技術とデジタル、そしてAIを融合させて人手に依存していた作業の自動化に果敢に挑戦し、事業化を加速させます。

それでは、17ページにお進みください。



## **2. 2025年度 通期 連結業績見通し**

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

・地政学的リスクや米国の関税政策などにより不透明な状況の中、足元では需要の回復が見られるものの、3-11月期の進捗は想定通りであるため、通期見通し (2025年10月3日公表) を据え置く

	2025年度	2024年度	前年同 期 比	
	見通し	実績	増減額	増減率
売 上 収 益	5,250億円	5,377億円	▲127億円	▲2.4%
営 業 利 益	480億円	502億円	▲22億円	▲4.3%
税 引 前 利 益	505億円	785億円	▲280億円	▲35.6%
親会社の所有者に帰属する 当 期 利 益	370億円	570億円	▲200億円	▲35.1%

2025年度通期の業績見通しについてです。

地政学的リスクや米国の関税政策などにより不透明な状況の中、足元では需要の回復が見られるものの、3-11月期の進捗は想定通りであるため、2025年10月3日公表の見通しを据え置きます。

第4四半期における想定為替レートについても変更はなく、ドルは145円、ユーロは160円、元は20円、韓国ウォンは0.11円としています。

それでは、26ページにお進みください。

### 3. 参考資料

設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度

設備投資・研究開発費の状況

(単位：億円)

	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (計画)
設備投資額	378.6	406.7	550.0
減価償却費	208.0	208.0	220.0
研究開発投資	212.5	237.7	250.0

為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位：円)

	2023年度 (実績)				2024年度 (実績)				2025年度 (想定)			
	3-11	4Q	下期	通期	3-11	4Q	下期	通期	3-11	4Q	下期	通期
対 米ドル	142.1	146.7	147.9	143.2	152.2	154.1	151.6	152.7	147.9	145.0	148.2	147.2
対 ユーロ	153.7	159.4	159.3	155.1	165.1	160.6	161.3	164.0	169.4	160.0	168.1	167.1
対 元	19.89	20.42	20.44	20.02	21.12	21.12	21.01	21.12	20.58	20.00	20.63	20.45
対 ウォン	0.108	0.111	0.112	0.109	0.112	0.107	0.108	0.111	0.105	0.110	0.108	0.106

為替感応度

(単位：億円)

	1%変動による影響額目安 (2025年度_通期)	
	売上収益	営業利益
米ドル	13.2	3.0
ユーロ	6.7	1.0
元	11.3	3.0
ウォン	4.0	1.3

B/S 構造の推移

2025年2月28日時点

親会社所有者帰属持分比率

58.0%

親会社所有者帰属持分

4,312億円

有利子負債

1,095億円

(現金及び現金同等物)

590億円

D/Eレシオ

0.25

(ネットD/Eレシオ)

0.12

棚卸資産

2,063億円

(回転月数)

(4.5ヶ月)

ROE

13.7%

ROIC

12.2%

2025年11月30日時点

親会社所有者帰属持分比率

58.2%

親会社所有者帰属持分

4,632億円

有利子負債

1,177億円

(現金及び現金同等物)

437億円

D/Eレシオ

0.25

(ネットD/Eレシオ)

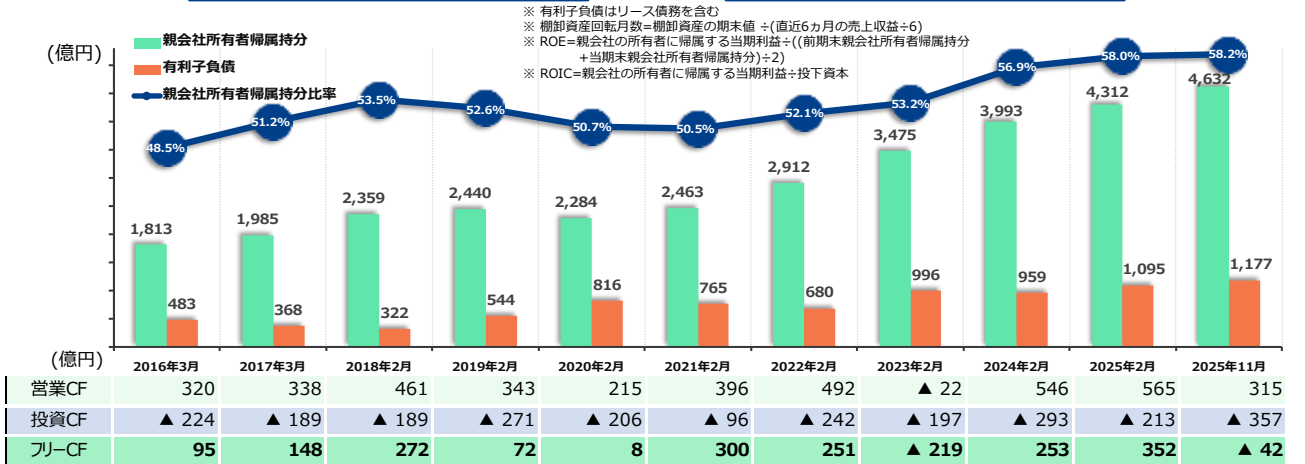
0.16

棚卸資産

2,169億円

(回転月数)

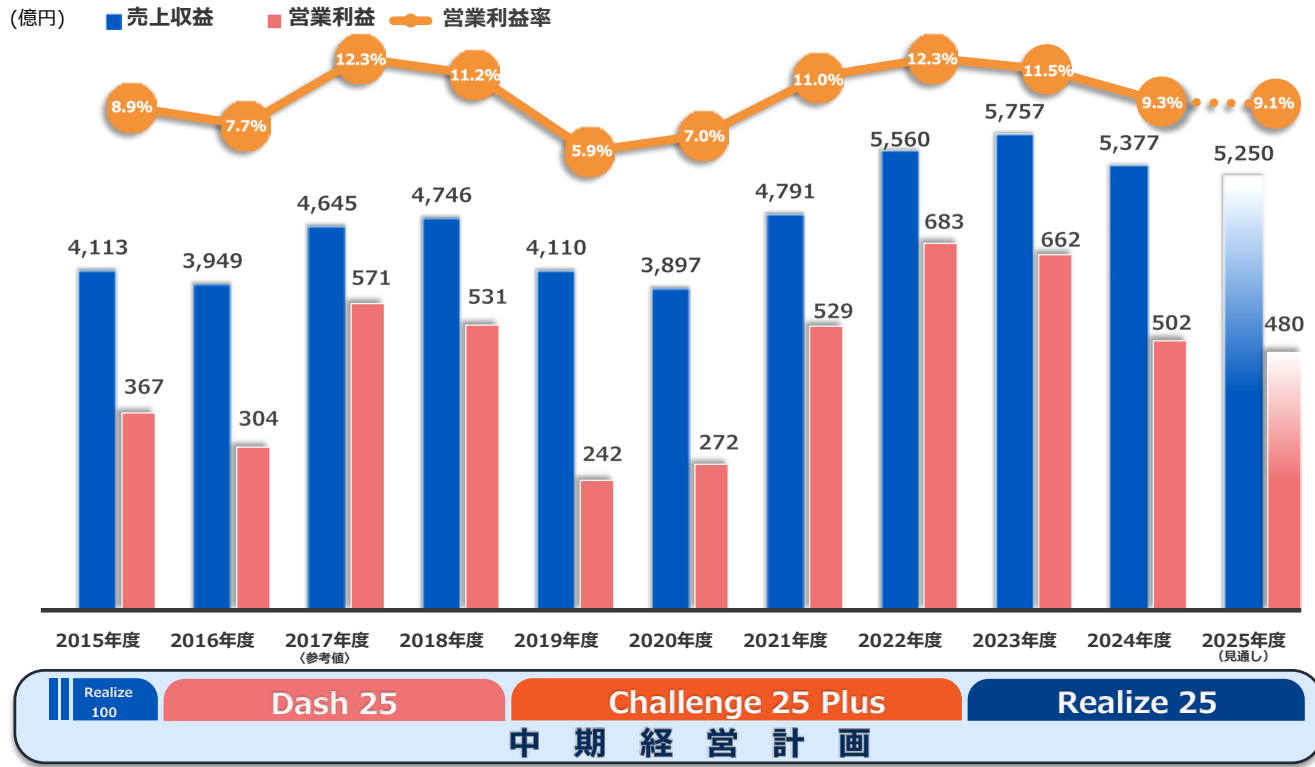
(4.8ヶ月)



[注] 2018年2月までのデータは日本基準にて記載

<スキップ>

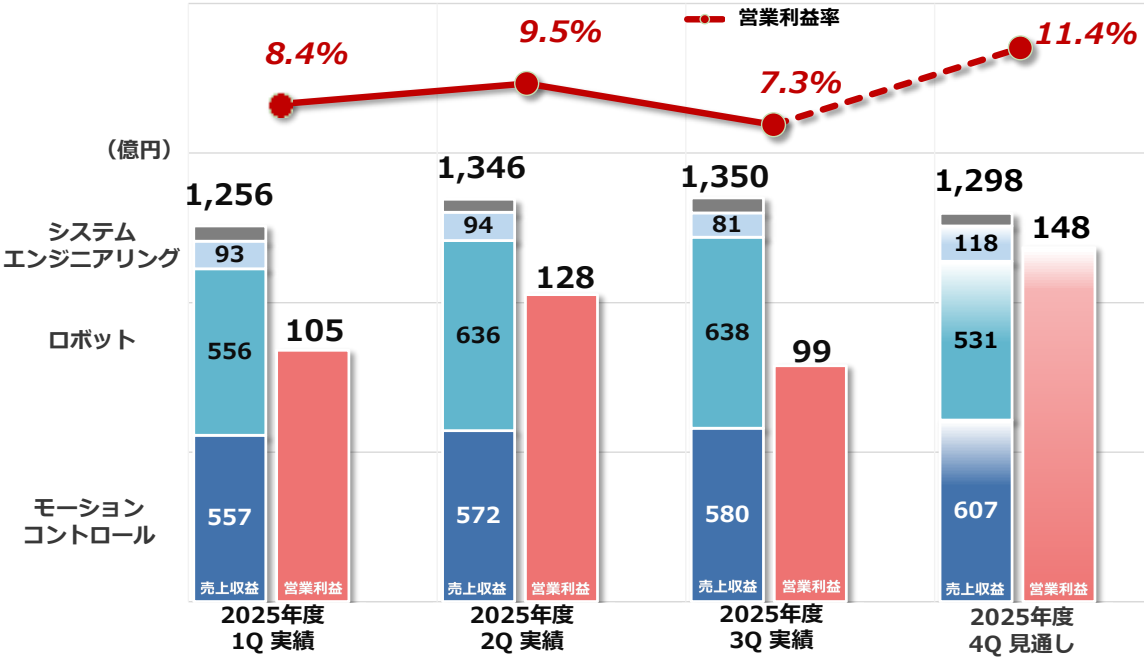
売上収益・営業利益推移（2015年度～2025年度見通し）



[注1] 2017年度までのデータは日本基準にて記載  
[注2] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

売上収益・営業利益 四半期推移

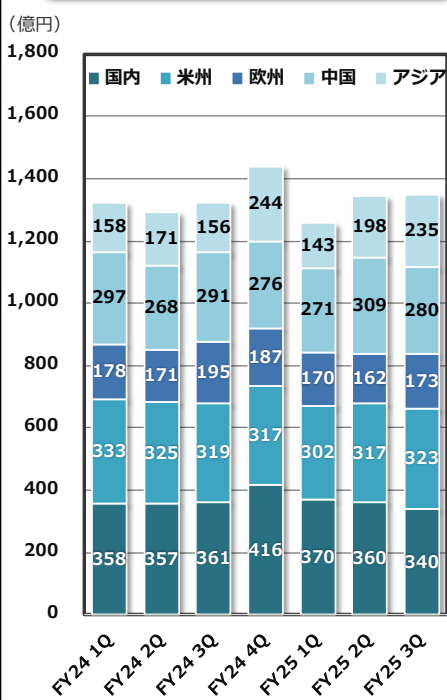
- ・売上収益は自動車の大口案件により2Q・3Qで1,300億円を超える
- ・3Q営業利益率は売上案件のミックス影響などにより低下



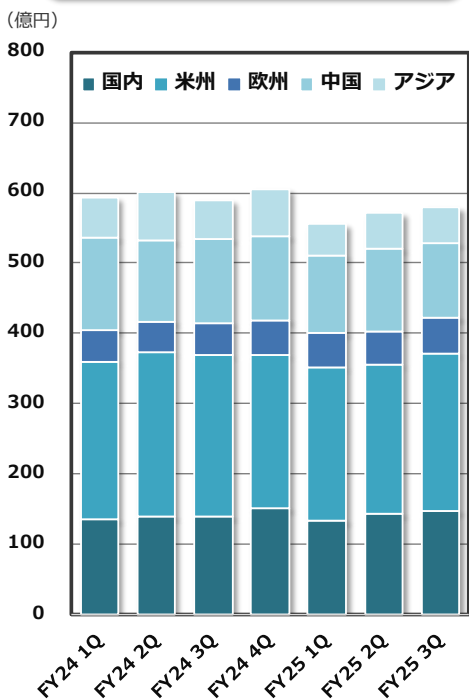
<スキップ>

売上収益 四半期推移

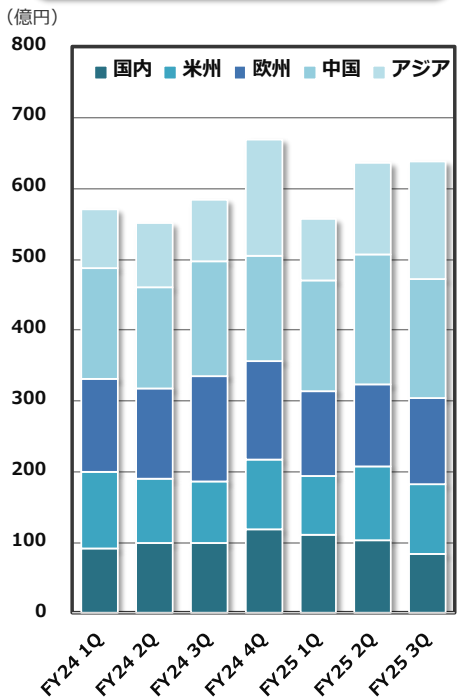
全 社



モーションコントロール

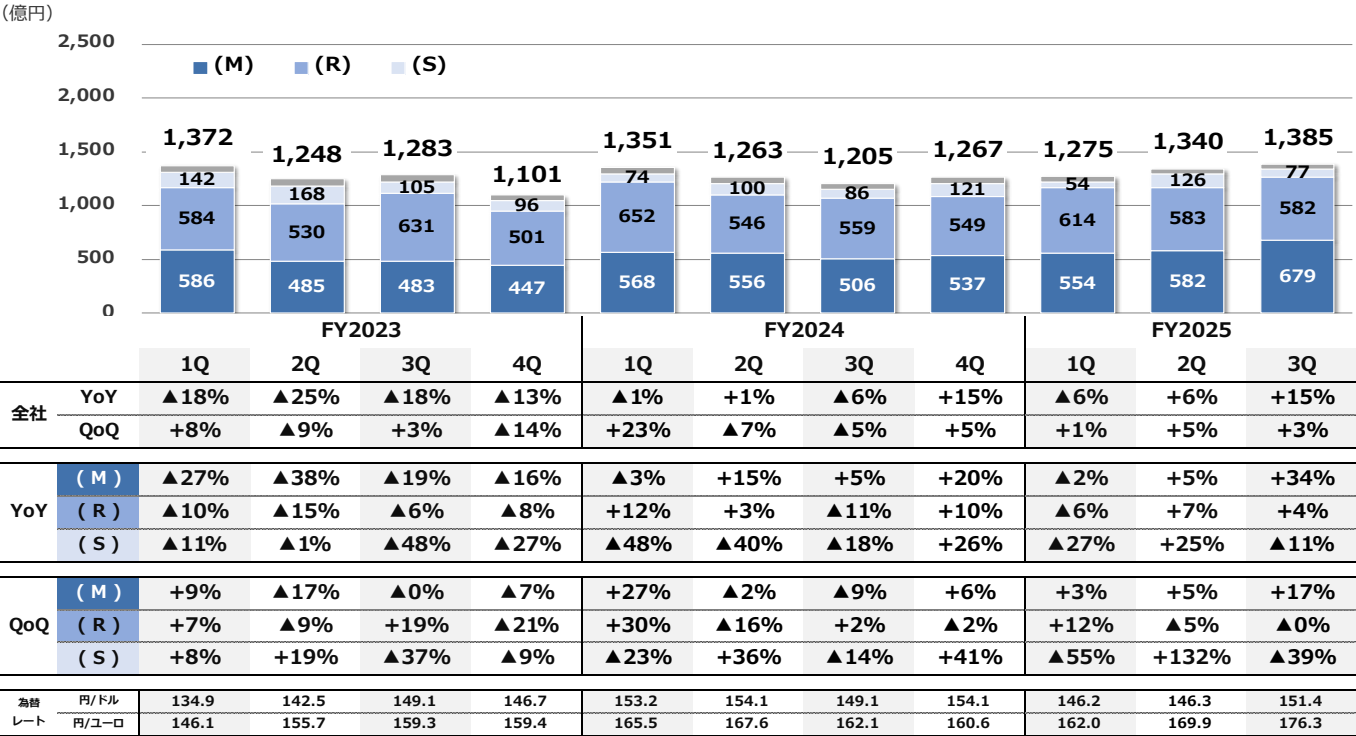


ロ ボ ッ ト





四半期受注推移（セグメント別） ※為替は期中平均レートを使用

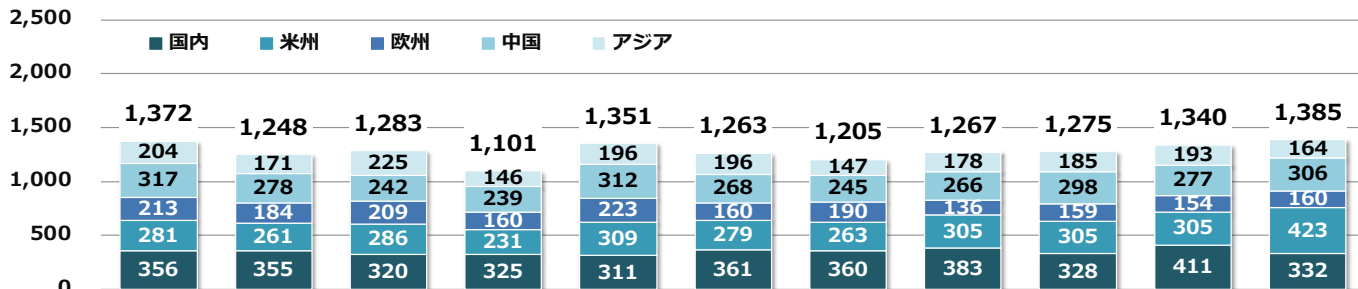


[注] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

四半期受注推移（所在地別）

※為替は期中平均レートを使用

(億円)



FY2023						FY2024				FY2025		
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
Total	YoY	▲18%	▲25%	▲18%	▲13%	▲1%	+1%	▲6%	+15%	▲6%	+6%	+15%
	QoQ	+8%	▲9%	+3%	▲14%	+23%	▲7%	▲5%	+5%	+1%	+5%	+3%
YoY	国内	▲23%	▲31%	▲26%	▲11%	▲13%	+2%	+13%	+18%	+6%	+14%	▲8%
	米州	▲19%	▲30%	▲12%	▲23%	+10%	+7%	▲8%	+32%	▲1%	+9%	+61%
	欧州	▲13%	▲2%	▲21%	▲28%	+5%	▲13%	▲9%	▲15%	▲29%	▲4%	▲16%
	中国	▲27%	▲26%	▲41%	+3%	▲1%	▲3%	+1%	+11%	▲5%	+3%	+25%
	アジア	+10%	▲20%	+72%	▲2%	▲4%	+14%	▲34%	+22%	▲6%	▲1%	+11%
QoQ	国内	▲3%	▲0%	▲10%	+2%	▲5%	+16%	▲0%	+6%	▲14%	+25%	▲19%
	米州	▲6%	▲7%	+10%	▲19%	+34%	▲10%	▲6%	+16%	+0%	▲0%	+39%
	欧州	▲4%	▲13%	+14%	▲24%	+40%	▲28%	+19%	▲28%	+17%	▲3%	+4%
	中国	+37%	▲12%	▲13%	▲1%	+30%	▲14%	▲9%	+9%	+12%	▲7%	+10%
	アジア	+37%	▲16%	+31%	▲35%	+34%	▲0%	▲25%	+21%	+4%	+5%	▲15%

<スキップ>

売上収益における為替影響

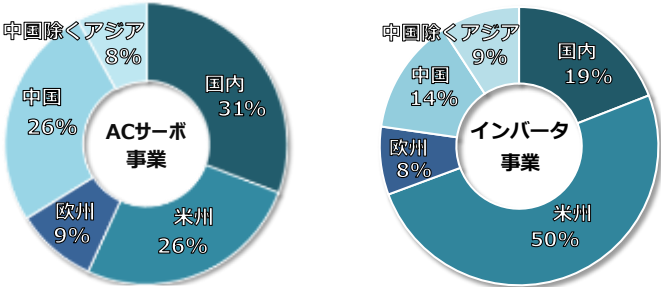
前年同 期 比		
(単位：億円)		
	2025年度 3-11月期	2025年度 見通し
全 社	▲65	▲99
モーションコントロール	▲30	▲52
ロボット	▲33	▲45
システムエンジニアリング	▲1	▲1
その他	▲1	▲1

連結受注 事業別・所在地別増減率

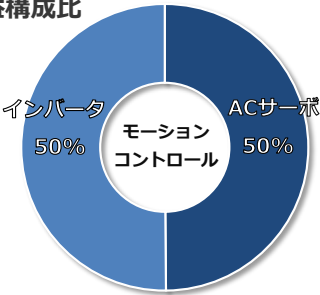
FY2025 3Q 受注		モーションコントロール		ロボット
		ACサーボ	インバータ	
全 社	YoY	+11%	+62%	+4%
	QoQ	+7%	+26%	▲0%
YoY	国内	+6%	▲14%	▲22%
	米州	+8%	+142%	+9%
	欧州	+24%	+47%	▲28%
	中国	+4%	+17%	+46%
	アジア	+48%	▲39%	+24%
QoQ	国内	▲14%	▲18%	▲17%
	米州	+48%	+58%	▲1%
	欧州	+2%	+31%	+0%
	中国	+7%	+19%	+12%
	アジア	+4%	▲57%	▲3%

モーションコントロールセグメント  
2025年度3-11月期 売上収益構成比

所在地別売上収益構成比



事業別売上収益構成比



最後になりますが、配当につきましては、期初発表時の内容から変更はなく、年間配当は、前年度から据え置きとなる68円を予定しています。

以上をもちまして、2025年度 3-11月期の業績概要の説明を終わります。

ご清聴いただき、ありがとうございました。

# YASKAWA

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>